

第2学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「はたらく人に話を聞こう」 教材名「はたらく人に話を聞こう」

2 単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、経験や事物を伝える言葉の働きに気付き、使った言葉と伝わった内容を結び付けている。思考・判断・表現では、働く人への質問を準備し、答えの大事な言葉をメモして聞き直す。交流や試行の前後を比べ、仕事の聞き取りメモを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①経験や事物を伝える言葉の働きに気付き、使った言葉と伝わった内容を結び付けている。（〔知識及び技能〕(1)ア）	①「話すこと・聞くこと」において、働く人への質問を準備し、答えの大事な言葉をメモして聞き直している。（A(1)エ）	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

この単元では、話し手の大事なことを落とさず聞く方法を中心に学ぶ。働く人への質問を準備し、答えの大事な言葉をメモして聞き直す活動を組むことで、言葉について知ることと、目的に合わせて使うことを結び付ける。指導要領の〔知識及び技能〕(1)アとA(1)エに関係する学習である。成果は、仕事の聞き取りメモに示した判断と理由から捉える。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

予想される難しさは、質問を読み上げることに集中して答えを聞かないことである。質問欄と理解できたことの欄を分け、短い聞き取り練習をする。初めの答えを消さずに残し、学習後に何を变えたか、なぜ残したかを比較できるようにする。児童の反応は予想である。実在の学級の姿を示すものではない。読む速さや記述量の差を、そのまま国語の力の差として扱わない。

5 指導と評価の計画（全4時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○話し手の大事なことを落とさず聞く方法に関する既習を振り返る。 ○教材や教師作成の例を見比べ、単元の終わりに残す仕事の聞き取りメモの内容を確認する。	既習と語句の理解を見取り、支援の必要な箇所を把握する。
第2次	2～3 （本時は3時）	○働く人への質問を準備し、答えの大事な言葉をメモして聞き直す。 ○必要な語句や資料を整理し、自分の考えを記す。 ○仕事について何を聞くと詳しく分かるかを中心に交流し、根拠を調べ直して表し方を検討する。	知①（語句や関係の整理）・思①（作成途中の記録・発言）
第3次	4	○仕事の聞き取りメモを仕上げ、選んだ言葉や直した理由を伝える。 ○単元の前後の記録を読み比べ、他の学習でも使えそうな考え方を記す。	思①（成果物）・態①（見直しの理由と単元中の記録）



6 本時の指導 (3/4)

(1) 本時の目標

働く人への質問を準備し、答えの大事な言葉をメモして聞き直すことができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前時までの記録を確かめ、今日使う教材や資料を準備する。 ○「仕事について何を聞くと詳しく分かるか」 【めあて】話し手の大事なことを落とさず聞く方法について、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・ 答えを聞くとさらに知りたいことができた。 ・ どこを確かめれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例を見える所へ置く。質問を読み上げることに集中して答えを聞かない姿が見られても、すぐに訂正せず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 (分)	2 働く人への質問を準備し、答えの大事な言葉をメモして聞き直す。 3 話し手と聞き手を交代し、相手が伝えた内容を確認して質問や応答を返す。 4 「仕事について何を聞くと詳しく分かるか」を観点に、伝わった内容と伝わりにくかった点を確認め、もう一度話したり聞いたりする。 〈予想される児童の反応〉 ・ 答えを聞くとさらに知りたいことができた。 ・ 友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	質問欄と理解できたことの欄を分け、短い聞き取り練習をする。知識・技能では、経験や事物を伝える言葉の働きに気付き、使った言葉と伝わった内容を結び付けている。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。 ◎①働く人への質問を準備し、答えの大事な言葉をメモして聞き直している。 (A(1)工) (発言・聞き手の応答・聞き取りや話し方の記録)
まとめ (分)	5 仕事の聞き取りメモを確かめ、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】聞く目的を決め、理解できたことと確かめたことを区別すると、必要な質問を考えられる。 6 最初から変えた点、理由を確かめて残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・ 自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。仕事について何を聞くと詳しく分かるかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知① (仕事の聞き取りメモと実際の言葉の使用) ・ 態① (単元を通した試行や見直し)

(3) 本時の評価

おおむね満足できる状況は、働く人への質問を準備し、答えの大事な言葉をメモして聞き直している姿である。発言・聞き手の応答・聞き取りや話し方の記録を基に判断する。質問を読み上げることに集中して答えを聞かない場合は、質問欄と理解できたことの欄を分け、短い聞き取り練習をする。読み書き

の速さや発表の回数ではなく、本時の目標に関わる言葉の使い方と判断を捉える。

(4) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には話し手の大事なことを落とさず聞く方法を確かめる語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に仕事の聞き取りメモで残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

